

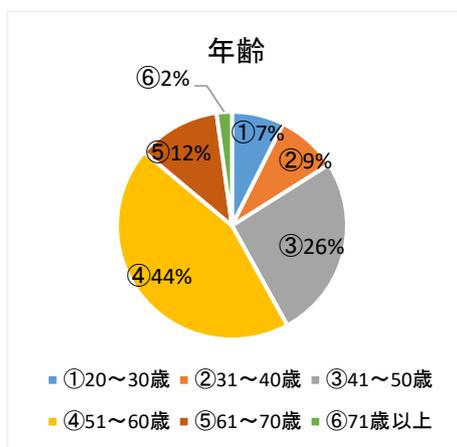
2019年度アンケート（現場の声を聞かせてください）の結果

支部名	但馬	近畿ブロック	県主催	阪神南・北	県主催	神戸西部・東播	摂丹・北播・東播	県主催	阪神南	西播3支部	県主催	合計
開催日	10月6日	10月25/26日	11月16日	11月30日	12月7日	12月14日	12月14日	1月18日	2月8日	2月9日	2月15日	
回収数	27	34	78	52	56	56	27	177	23	80	105	715
意見・要望	1	10	8	4	4	0	3	27	0	1	35	88

1. 基本情報

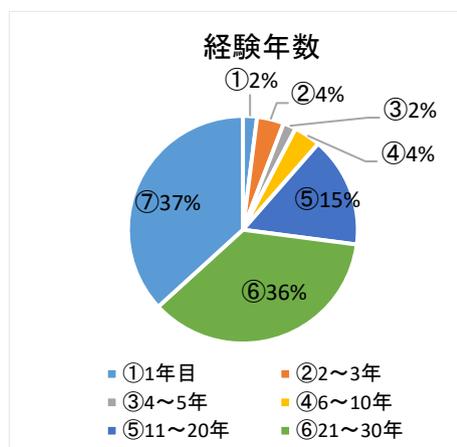
年齢

①20～30歳	71
②31～40歳	57
③41～50歳	170
④51～60歳	293
⑤61～70歳	81
⑥71歳以上	15



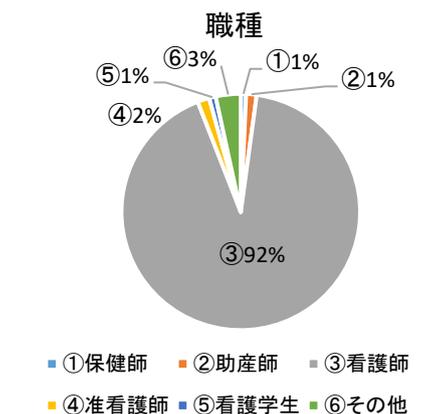
経験年数

①1年目	27
②2～3年	27
③4～5年	20
④6～10年	32
⑤11～20年	107
⑥21～30年	229
⑦31年以上	245



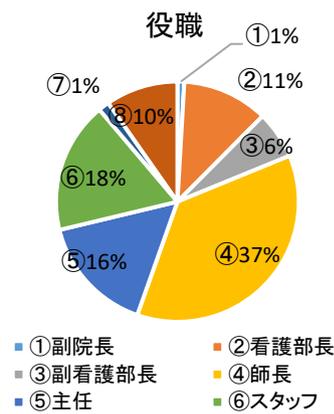
職種

①保健師	6
②助産師	11
③看護師	624
④准看護師	15
⑤看護学生	5
⑥その他	34



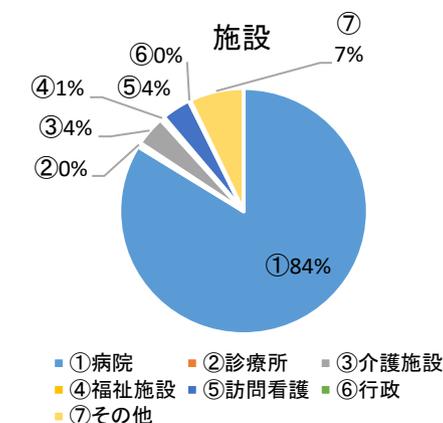
役職

①副院長	6
②看護部長	67
③副看護部長	39
④師長	224
⑤主任	94
⑥スタッフ	159
⑦教員	9
⑧その他	115



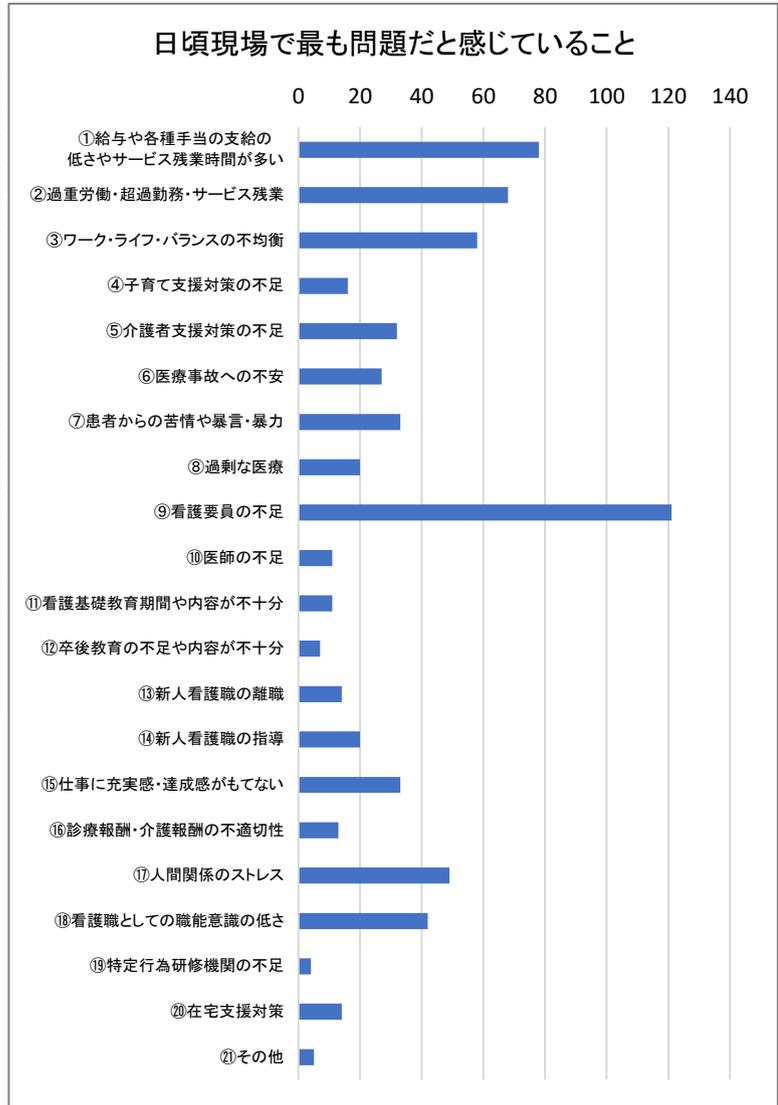
施設

①病院	568
②診療所	5
③介護施設	32
④福祉施設	3
⑤訪問看護	23
⑥行政	2
⑦その他	49



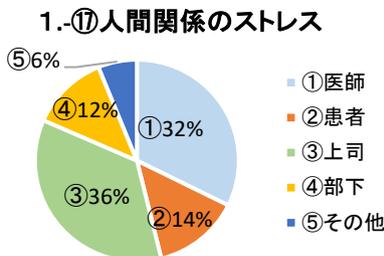
2.日頃現場で最も問題だと感じていること (10/6、11/16、12/14、12/14、2/9のデータのみ)

①給与や各種手当の支給の低さやサービス残業時間が多い	78
②過重労働・超過勤務・サービス残業	68
③ワーク・ライフ・バランスの不均衡	58
④子育て支援対策の不足	16
⑤介護者支援対策の不足	32
⑥医療事故への不安	27
⑦患者からの苦情や暴言・暴力	33
⑧過剰な医療	20
⑨看護要員の不足	121
⑩医師の不足	11
⑪看護基礎教育期間や内容が不十分	11
⑫卒後教育の不足や内容が不十分	7
⑬新人看護職の離職	14
⑭新人看護職の指導	20
⑮仕事に充実感・達成感がない	33
⑯診療報酬・介護報酬の不適切性	13
⑰人間関係のストレス	49
⑱看護職としての職能意識の低さ	42
⑲特定行為研修機関の不足	4
⑳在宅支援対策	14
㉑その他	5



【1.-⑰人間関係のストレス対象者】

①医師	21
②患者	9
③上司	23
④部下	8
⑤その他	4

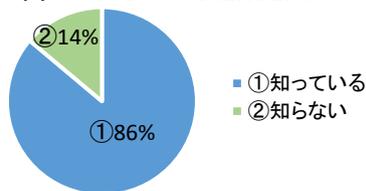


3.看護連盟が支援する看護職の国会議員の認知度

(1) 石田まさひろ (参議院議員)

①知っている	568
②知らない	91

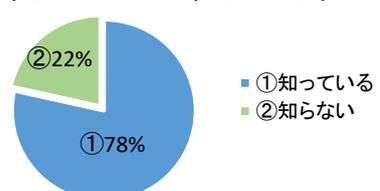
(1)石田まさひろ(参議院議員)



(2)たかがい恵美子(参議院議員)

(2) たかがい恵美子 (参議院議員)

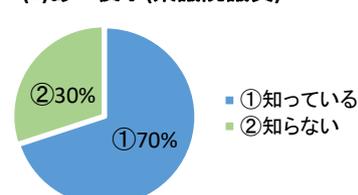
①知っている	511
②知らない	140



(3) あべ俊子 (衆議院議員)

①知っている	456
②知らない	196

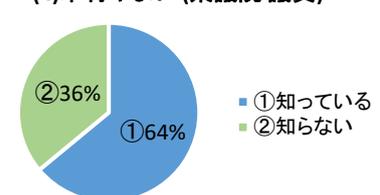
(3)あべ俊子(衆議院議員)



(4)木村やよい(衆議院議員)

(4) 木村やよい (衆議院議員)

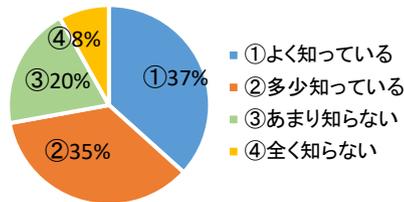
①知っている	413
②知らない	233



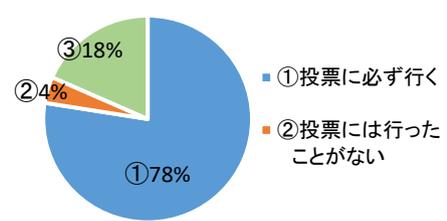
4.看護連盟活動について

①よく知っている	245
②多少知っている	236
③あまり知らない	132
④全く知らない	54

4. 看護連盟活動について



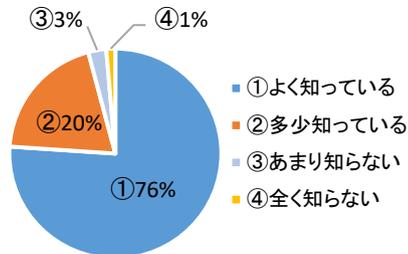
5.選挙行動について



5.選挙行動について

①投票に必ず行く	510
②投票には行ったことがない	27
③投票はあまり行かない	121

6. 期日前投票の認知度



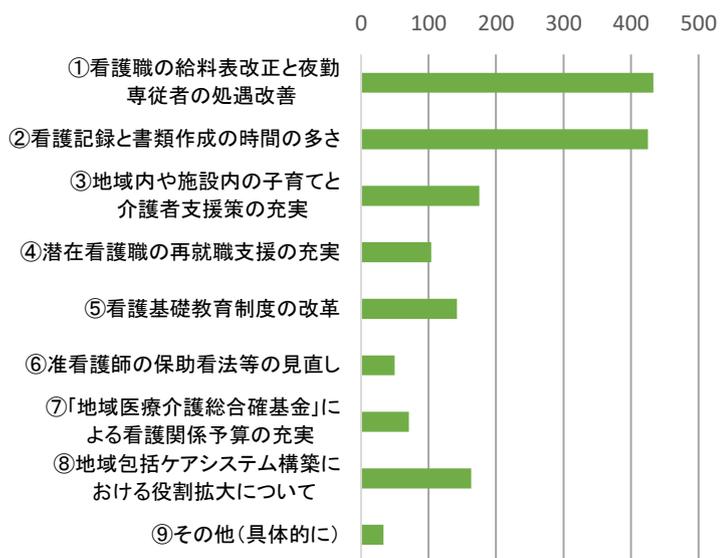
6.期日前投票の認知度

①よく知っている	499
②多少知っている	130
③あまり知らない	18
④全く知らない	9

7. 看護連盟や看護職の国会議員に取り組んでほしい看護政策

①看護職の給料表改正と夜勤専従者の処遇改善	433
②看護記録と書類作成の時間の多さ	425
③地域内や施設内の子育てと介護者支援策の充実	175
④潜在看護職の再就職支援の充実	104
⑤看護基礎教育制度の改革	142
⑥准看護師の保助看法等の見直し	50
⑦「地域医療介護総合確基金」による看護関係予算の充実	71
⑧地域包括ケアシステム構築における役割拡大について	163
⑨その他（具体的に）	33

7. 看護連盟や看護職の国会議員に取り組んでほしい看護政策



7.-⑨その他

①処遇改善に関するもの

- ・病院で働く介護士、看護補助者の処遇が低い
- ・看護職の給与を正しく評価できる体制
- ・定年制度の基準を統一して欲しい
- ・サービス残業の多さ

②卒後教育に関するもの

- ・看護教育と一般教育のあり方
- ・新人研修の努力義務化
- ・特定行為研修の広がり

③制度の見直しに関するもの

- ・看護必要度の見直し
- ・産婦人科病棟の混合化により、産婦への充実したケアの提供ができにくい現状の改変

8. 看護職の確保・定着や働き方改革の中で、職場で工夫されていることのその背景

(10/25・26、11/30、12/7、1/18、2/8、2/15のデータより)

《取り組んでいる具体的な内容》

- ①看護管理者への動機づけ
 - ・怒らないで指導する（管理者の感情に振り回され退職するスタッフがいる）
 - ・職員向けアンケートから、師長とのグループワークで改善策を検討実施
 - ・管理職（協力してくれないことが多い）、病棟の状況、スタッフの状況を整える必要
 - ・休日の会議参加は不要。月1回の病棟会議を2月に1回とした。
 - ・主任の教育
- ②様々なライフスタイル（子育て、介護、子育て世代のサポート）
 - ・子育て支援としての多様な働き方（日勤常勤、時短）
 - ・院内保育、夜間保育、病児保育
 - ・柔軟な勤務体制（子育て・親の介護をしながら働き続ける）
 - ・寮の確保
 - ・パート勤務者へのボーナス支給
- ③WLBの充実（休日、時間外勤務、残業）
 - ・有休取得率アップのため計画的に取得する
 - ・時間外勤務の削減
 - ・定時で帰ろう！
 - ・リフレッシュするための長期休暇がとれる環境
 - ・会議のもち方の工夫
 - ・誕生日休暇や夏休みの充実
- ④職場の雰囲気づくり
 - ・全職員が協力できる雰囲気
 - ・お互いさまの心構え
 - ・職員提案制度で要望を自由に伝えることができる
 - ・部署の応援体制
- ⑤多職種連携
 - ・チーム医療の推進
 - ・イベントを通して、多職種が一つのチームになることで支え合えるチーム作り
 - ・毎朝の朝礼でナースとケースワーカーが話題を共有している
 - ・ナースクラークの配置
- ⑥人材育成・教育体制
 - ・院内教育の充実
 - ・PNSの導入
 - ・新人研修制度の活動として支援
 - ・新人・中途入職者へのサポート
 - ・教育実践センターの設置と活動
- ⑦業務改善
 - ・PFM（入退院センター）の取り組みで病棟ナースの負担軽減
 - ・ICする時間を日勤帯に。術前ICは外来で実施。
 - ・本来の看護業務に専念
 - ・リーダー会を中心に業務改善を行い、削減できる業務を検討
 - ・業務整理と多職種との業務委託

9. 看護連盟への意見・要望（多数の意見より一部紹介）

- ①地域医療における看護職の役割が多く、地域で看護師が育てられるような意識を住民と共に考えることができればよいと思う。地域の医療体制の継続として支援を頂ければ嬉しいです。
- ②政治の力も一緒にしないと看護師の働く環境は整わないのだと思いました。
- ③定年退職後の人材活用（登録、看護協会との連携） 各地域での交流を是非お願いします。
- ④看護を取り巻く現状を理解でき良かったです。
- ⑤若いナースの加入のために、基礎研修を大事にして、どう関わるのか検討するべきだと思います。
- ⑥看護の評価が正しく行われるような制度の改正が必要。それに向けて連盟活動が必要。高度医療のさらなる評価を求め、それに対応できる看護職に自らが考え直す必要がある。
- ⑦これまで知らなかった看護連盟の活動や方向性が知れて良かった。
- ⑧看護実践力を高めるためにスタッフ同士はめ合い看護力を高めていきたいです。元気が出ました！
- ⑨今回の研修で選挙行動について考えさせられました。次回からちゃんと投票に行こうと思いました。
- ⑩毎日業務に追われているが、もう一度管理者としてしてしていかないといけないことを学び認識する機会となりました。
- ⑪現場を離れても専門職としての使命を忘れず活動することの重要性を再認識しました。看護の未来のために、今自分のできることを一生懸命していきたいと思いました。
- ⑫分かりやすく連盟活動を聞かせて頂きました。このことを日々の活動に活用したいと思います。